

「レイ・プランツ」を八丈島から！



【レイ・プランツとは】

ハワイでは冠婚葬祭やフラ（ダンス）、宗教的な儀式に、首や頭、肩にかける伝統的な装飾品“レイ”が使われてきました。レイの材料となる植物を、“レイ・プランツ”と呼びます。レイに使う植物というと、カラフルな花を思い浮かべる人が多いかもしれませんが、レイには緑の葉やツルなども多く使われます。八丈島では、フラの神様“ジョージ・ナオペ氏”の来島を契機に、レイ・プランツ栽培の機運が高まりました。さらに最近のフラの人気により、国産レイ・プランツを求める声を受け、八丈島におけるレイ・プランツの生産が広がりつつあります。

【代表的なレイ・プランツ】

代表的なレイ・プランツにティがあります（図1）。ハワイにおいて、ティの葉（ティ・リーフ）は

魔除けや幸運を呼び込むものとされており、家の周りに植えたり、皿として料理の盛り付けなどにも使われたりしています。八丈島では元々アオヒロバの名称で栽培されており、後にレイ・プランツとして使えることがわかりました。2枚に裂いたティ・リーフを編み込んで、首飾りなどになるレイ（図2・左）や、バラの花の形をしたレイ（図2・右）などを作ることができます。

【新たなレイ・プランツ】

八丈事業所では、八丈島におけるレイ・プランツ生産を振興するため、ティ・リーフ以外の新たなレイ・プランツの栽培技術の開発に取り組んでいます。現在は新品目として、イシカグマやクラウンフラワー、オキナワウラボシについて試験し、農家への普及や販路拡大に向けたPRにも取り組んでいます（図3）。



図1 ティ・リーフの栽培



図2 ティ・リーフで作った（左）首飾りと（右）バラのレイ



図3 レイ・プランツの新品目（左）イシカグマ、（中）クラウンフラワー、（右）オキナワウラボシ